

身近なサイエンス コミュニケーションを 発展させる秘策とは？



国立科学博物館
内尾優子

身の回りの 様々なサイエンス コミュニケーション！

科学館・博物館スタッフ 学校の先生
保健所の職員 ペットショップのスタッフ
園芸店の店員 企業の営業職 SE
検疫所の職員
環境ボランティア など

特別ではなく 色々なところに

隠れサイエンス コミュニケーター？

サイエンスコミュニケーションであると
意識をしないで活躍している方も

“隠れサイエンスコミュニケーション？”

“隠れサイエンスカフェ？”

様々な分野で飲みながら語る会

多様な形・パターンで開催中

サイエンス コミュニケーションを 発展させるということ

- 科学的なセンス・考え方が広まり、その濃度を高めていく。
- いろいろな人と交わり情報交換することで新しいチャンスが！

「サイエンスコミュニケーション」
そのものをもっと広報するべき？

皆さんと考えたい 本日の議論のポイント

- こんなところにも！
皆さんそれぞれの立場での事例
- そもそも何が求められているのか？
社会に定着するとは？
- これからどうすれば、
もっと発展できるのか？